

平成 28 年度倫理審査委員会報告

○ 目的

環境衛生科学研究所の職員が人を対象とする医学系研究を実施する場合において、研究が倫理的配慮の下で適切に行われることを目的として、倫理審査委員会による審査を実施しました。

○ 開催日 平成 28 年 9 月 14 日(水)(各委員から意見聴取)

○ 倫理審査委員

委員長	島田 俊夫	静岡県立総合病院 臨床研究部長
副委員長	三輪 憲永	東海大学短期大学部 教授
委員	出川 雅邦	静岡県立大学 名誉教授・客員教授
委員	野々木 宏	静岡県立総合病院 院長代理
委員	三浦 進司	静岡県立大学 食品栄養学部 教授
委員	吉野 豪一	一般財団法人 静岡県生活科学検査センター 所長
委員	前田 有美恵	環境衛生科学研究所 副所長
委員	高橋 真	環境衛生科学研究所 企画調整課長

○ 審査対象研究課題

平成 28 年度研究課題のうち、試料・情報(人体から採取した糞便)を用いる「機能性ナノ粒子を用いた高感度かつ迅速なノロウイルス検出技術の開発」について審査を実施しました。

○ 審査項目

- 1 研究によって生ずる危険性と学術上の成果との総合的判断
- 2 研究対象者の人権擁護及び個人情報の保護
- 3 試料・情報の入手方法

○ 研究概要と審査結果

No.	研究概要	審査結果
1	<p>○ 機能性ナノ粒子を用いた高感度かつ迅速なノロウイルス検出技術の開発</p> <p>毎年、秋から春にかけ、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が多発している。病原体検索のため医療機関で使用されているノロウイルス簡易診断キットは、イムノクロマト法を利用したものであるが、診断誤差などの問題が否定できない。</p> <p>ノロウイルスの診断誤差が小さく、かつどこの医療機関でも使用でき、検査時間も短い検出技術が開発されれば、臨床現場における患者の負担軽減につながるとともに、不顕性感染者の早期発見によるノロウイルス感染症の拡大防止への応用も期待できる。</p> <p>本研究では、金ナノ粒子を用いたナノ物質複合体と蛍光ナノ物質がウイルスを介して接近することにより、プラズマ共鳴現象がおり、蛍光が増強される原理を用いたウイルス検出技術をノロウイルスについても応用し、従来法よりも高感度、高精度、高汎用性かつ迅速診断が可能な検出法を開発を行う。</p>	承認